

略号:GP-CS (cleaning sebum)

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

手あか汚れ・皮脂軟化対策水性内部用塗料

オーデノーダック®

手の触れるところに適した
水性内部用塗料



人の手が触れるところだから…。 環境にやさしく、皮脂による「汚れ」「はがれ」に強い塗料!

2003年に建築基準法が改正され、シックハウス症候群に対する問題意識が高まる中、屋内鉄部においても水性塗料の塗装仕様が増えています。水性化が進み、これらの問題が緩和される一方で、手の脂（皮脂）による問題がでてきました。扉や手すりなどの人の手が触れやすい部分は、皮脂で塗膜が軟らかくなり、そのため「手あか汚れ」や「はがれ」が生じる問題があり、特に水性塗料ではその傾向が強くていました。オーデノータックは、人の手が触れる個所に塗装されることを想定した屋内用水性塗料であり、皮脂に強く、「手あか汚れ」「はがれ」を起こしにくい塗膜を提供します。環境と人の健康にやさしく、汚れ、はがれに強い塗料の登場です。

特 長

- 1 人の皮脂による「手あか汚れ」「はがれ」に強い塗料です。
- 2 粘着感がありません（ノータック）。水性塗料としては最高レベルです。
- 3 水性塗料[F☆☆☆☆]で有害重金属（鉛・クロムなど）を配合しないので、環境・健康にやさしい塗料です。
- 4 屋内塗装に適した落ち着いた仕上がり肌が得られます。
- 5 防かび機能があり、オプションで抗菌機能も付与できます。
- 6 水性さび止め（水性ハイポンプライマー）との組み合わせで、オール水性の鉄部仕様が組めます。



皮脂による汚れ、はがれに強いオーデノータック!

皮脂軟化のメカニズム

- ① 手の接触により、手の脂（皮脂）が塗膜に付着。皮脂が徐々に塗膜内に浸透し、塗膜が軟化する。
- ② 軟化した塗膜は汚れが付きやすく、手の接触が増えると徐々に黒ずみ汚れが目立ち始める。
- ③ さらに物理的接触が繰り返されることで、軟化した塗膜がはがれる。

オーデノータックの耐皮脂性

エマルジョン樹脂内に導入した特殊モノマーの効果で、皮脂がなじみにくく、また浸透しにくい塗膜になります。

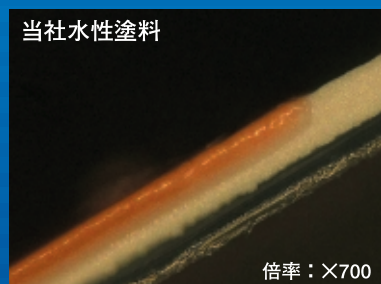
タックとは

粘着性。物質の接着表面に生じるネバツキのこと。
主に塗料、接着業界で使用される専門用語です。

皮脂軟化対策のメカニズム

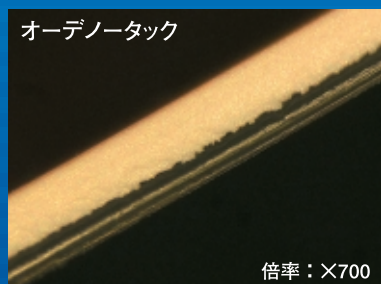
皮脂浸透試験

- 塗膜乾燥時間 — 室温約1ヶ月
- サンプル液 — 擬似皮脂（オレイン酸と中性油の混合液。わかりやすく赤色に着色しています）
- スポット時間 — 4時間
- 試験方法 — 一定時間乾燥させた塗膜にサンプル液をスポット滴下し、4時間後、ウェスでサンプル液を拭き取り、カッターナイフで切った断面をマイクロスコープにて浸透状態を観察しました。



当社水性塗料

倍率：×700



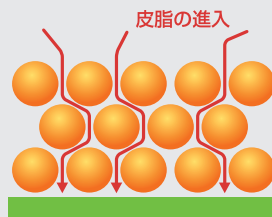
オーデノータック

倍率：×700

オーデノータックは一般水性塗料に比べ油分が塗膜に浸透していないことがわかります。

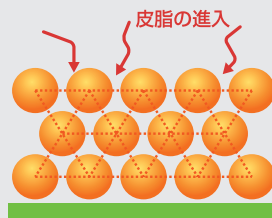
イメージ図

一般水性塗料



皮脂の進入

オーデノータック



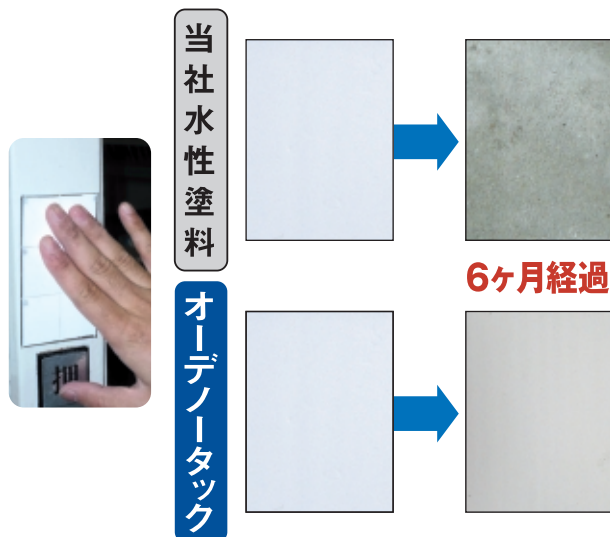
皮脂の進入

塗膜性能

〈テストピースによる皮脂軟化比較試験〉

鉄扉の人の手が触れやすい個所にテストピースを貼り付け、経過観察した。

**オーデノータックは
手あか汚れがほとんど見られない。**



環境性能

厚生労働省の揮発性有機化合物の室内濃度に関する指針値に合格

対象化学物質	室内濃度指針値 (値は25℃での換算)	オーデノータック
ホルムアルデヒド	100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.08ppm)	配合せず
トルエン	260 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppm)	配合せず
キシレン	870 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.20ppm)	配合せず
パラジクロロベンゼン	240 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	配合せず
エチルベンゼン	3800 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.88ppm)	配合せず
スチレン (モノマー)	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.05ppm)	配合せず
フタル酸ジ-n-ブチル	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppm)	配合せず
クロルピリホス	1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppm) 成人 0.1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.007ppm) 子供	配合せず
テトラデカン	330 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	配合せず
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (7.6ppm)	配合せず
ダイアジノン	0.29 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppm)	配合せず
アセトアルデヒド	48 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.03ppm)	配合せず
フェノブカルブ	33 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (3.8ppm)	配合せず

※現時点での原料情報に基づいた調査結果で、実際の測定結果ではありません。

基本性能

試験項目	規 格	5分つや有り・3分つや有り	つや有り
		試験結果	
容器の中での状態	かき混ぜたいとき、堅い塊がなくて一様になるものとする	合 格	合 格
塗装作業性	2回塗りで、はけ塗り塗装作業に支障がないものとする	合 格	合 格
低温安定性	-5℃に冷やしたとき変質しないものとする	合 格	合 格
乾燥時間	2時間以下 (23℃)、4時間以下 (5℃)	合 格	合 格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする	合 格	合 格
隠ぺい率 (白及び淡彩)	95以上	合 格	合 格
鏡面光沢度 (60°)	70以上	—	80
耐水性	96時間浸したとき異常がないものとする	合 格	—
	96時間浸したとき光沢保持率が80%以上で、塗面に異常がないものとする	—	合 格
耐アルカリ性	48時間浸したとき異常がないものとする	合 格	—
	7日間浸したとき光沢保持率が65%以上で、塗面に異常がないものとする	—	合 格
耐洗浄性	500回の洗浄に耐えるものとする	合 格	—
	1000回の洗浄に耐えるものとする	—	合 格
耐湿潤冷熱繰返し性	光沢保持率が80%以上で、湿潤冷熱繰返し耐えるものとする	—	合 格
促進耐候性 (キセノンランプ法)	白亜化度が8点以上で膨れ、はがれ、割れがなく、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする	合 格	—
	480時間の試験で光沢保持率が60%以上、白亜化度の等級1以下で、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする	—	合 格

商品体系

工程	商品名	系統	容量	色相	つや	塗り面積／缶当たり／1工程	ポットライフ
下塗り材	水性ハイボンプライマー	水性1液速乾エポキシ系さび止め塗料	16kg	純白・グレー・ホワイト	—	106～123㎡	—
	ニッペ水性ウッドベースU	水性反応硬化形ウレタン変性アクリルエマルション木部下塗り塗料	16kg・3kg	白	—	80～106㎡	—
上塗り材	オーデノータック	手あか汚れ・皮脂軟化対策水性内部用塗料	15kg・3kg	淡彩～濃彩	つや有り・5分つや有り・3分つや有り	125～150㎡	—

用 途

オフィスビル、公共施設 (病院・学校・宿泊施設など)、戸建て、マンション、賃貸住宅、工場・倉庫、店舗などの建物内部の鉄部・木部 (ドア枠・扉・手すりなど)。

標準塗装仕様

塗装仕様〈新設〉手あか汚れ・皮脂軟化対策水性内部用塗料

鉄部	工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
	素地調整	電動工具を主体とし、ISO St3まで除錆する。溶接部の著しい凸凹は、グラインダーで平滑にしてから電動工具で除錆する。						
	下塗り	水性ハイボンプライマー	1	0.13～0.16	4時間以上7日以内	水道水	0～5	はけ・ウールローラー
	上塗り	オーデノータック	2	0.10～0.12	2時間以上	水道水	5～10	はけ・ウールローラー

木部	工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
	素地調整	木部を傷つけないように除去し、油類は溶剤などで拭き取る。ヤニは削り取りまたは、電気ゴテ焼きの上、溶剤で拭き取る。P120～220研磨紙で研磨後、水拭きして研磨カスを除去する。著しいヤニ部はセラックニスで部分補修塗装する。穴埋めが必要な場合は、パテで穴埋めを行う。						
	下塗り	ニッペ 水性ウッドベース U	1	0.15～0.20	2時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー
	研磨紙 すり	研磨が必要な場合は、P220～320程度のサンドペーパーでからとぎし、研磨粉をウエスなどで拭きとり、清浄な面とする。						
	上塗り	オーデノータック	2	0.10～0.12	2時間以上	水道水	5～10	はけ・ウールローラー

注)上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

塗装仕様〈改修〉手あか汚れ・皮脂軟化対策水性内部用塗料

鉄部	工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
	下地調整	彫れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜、さび、付着物などの周辺をワイヤブラシ、クレン棒、電動工具などで除去する。油膜分、水分は溶剤拭きを行い清浄な面とする。						
	下塗り	水性ハイボンプライマー	1	0.13～0.16	4時間以上7日以内	水道水	0～5	はけ・ウールローラー
	上塗り	オーデノータック	2	0.10～0.12	2時間以上	水道水	5～10	はけ・ウールローラー

下地の状態が良好な場合

木鉄部	工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
	下地調整	油類は溶剤で拭き取る。P120～220研磨紙で十分に研磨後、水拭きして研磨カスを除去する。ヤニ部はセラックニスで部分補修しておく。						
	上塗り	オーデノータック	2	0.10～0.12	2時間以上	水道水	5～10	はけ・ウールローラー

注)上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

■施工上の要点・注意事項 (詳細な内容については各商品の製品使用説明書などにてご確認ください)

【下塗り(水性ハイボンプライマー)】

- 十分な遮湿性能を確保するため、規定の使用量をおまもってください。
- こびりこびり 油・樹脂類などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。
- さびは、ワイヤブラシ・サンドペーパーなどで入念に除去し、彫れ・割れの発生にはご注意ください。十分なクレンを行ってください。
- 鉄、アルミニウム、溶融亜鉛めっき、電気亜鉛めっきなどを塗装する場合は入念な面荒しを行ってください。
- 下地調整程度が軽い場合には、早期にさびが発生する可能性があります。
- 本品は規定の塗り重ね乾燥時間より早く上塗りを塗装しますと、縮み、割れ、乾燥不良を起こしますので、塗り重ね乾燥時間をまもってください。また、吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗り重ね乾燥時間は長めにとってください。短時間で上塗りを塗装しますと、溶剤による彫れや縮みなどが発生するおそれがありますので避けてください。
- 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮膜の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 管木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、彫れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 表面に特殊セラミック処理・特殊ガラスコート処理、フッ素コート処理、はっ水処理、光触媒処理などの特殊な処理を施した素材には、塗料が付着しない場合や、塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
- 上塗りに塗料系塗料の使用は避けてください。

【下塗り(ニッペ水性ウッドベースU)】

- 新木の乾燥程度は含水率18%以下(ケツ科社製HMF500シリーズで測定した場合)としてください。また節止めには必ずラックスを塗装してください。
- 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮膜の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 上塗りに塗料系塗料の使用は避けてください。

【上塗り(オーデノータック)】

- 本品のつや調整品は、ほかの塗料に比べ若干低めのつやに仕上がるように設計されておりますので、事前に見本板で仕上がりを確認してください。
- 遮光色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがありますのでご注意ください。
- つや調整品では、塗り過ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- 過剰希釈をすすと本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈率をまもってください。
- つや調整品では、つや消し剤が沈降しない場合があるため、よくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんし、均一な状態でご使用ください。
- つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、塗り板見本を参考に試し塗りをしてください。
- つや調整品は、塗料液が分離しやすいので、よくかくはんしながらご使用ください。
- 防藻・防かび・防菌効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をてから塗装してください。

- ださい。
- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- カンテラ、陳列棚、ベッチ、床面などのが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- スチールパキ回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑剤の移行などにより塗膜が軟化、はく離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
- 上塗りに混ぜたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス(シリコン加工され水をかけると著しくはくクロス)には塗装できません。塩ビクロスで可塑剤移行が考えられる場合は所定の仕様で塗装してください。
- 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸い込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。

【仕修金庫】

- 塗装後24時間以内など乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、彫れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きしてから除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってめくれになる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- 乾燥条件によっては塗膜表面に結着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。
- 動物のけは、けが固まったりタマになりやすいため、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着害をおそれる場合があります。
- 内面塗替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 素地の乾燥は十分に行ってください。
- 塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- 塗料は内容物が均一になるようよくかくはんしてください。薄めずは隠れい不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控え置き、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差が生まれますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- 汚れ、さびなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控え置き、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 可塑剤が多く含まれる塩ビ門簾、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 使用前に内容物が均等になるようよくはんし、開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷蔵所で保存し、速やかに使い切ってください。

警告

危険有害性情報

安全衛生上の注意事項 オーデノータック 白

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 使用前に取扱説明書を理解して、取り扱ってください。
- 粉じん／ガス／蒸気／スプレーなどを吸入しないでください。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。
- 取り扱い後は、手洗いおよびうがいを十分にしてください。
- 適切な保護手袋／防毒マスクまたは防塵マスク／保護眼鏡／保護面／保護衣を着用してください。
- 必要に応じて個人用保護具を使用してください。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
- 飲み込んだ場合：気分が悪いときは、医師に連絡してください。口をすすいでください。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けてください。
- 取り扱った後、手を洗ってください。
- 粉じん、蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなったときには、安静にし、必要に応じてできるだけ医師の診察を受けてください。
- 暴露したとき、気分が悪いなどの症状がある場合は、医師に連絡してください。
- 容器からこぼれたときには、砂などを散布した後処理してください。
- 施設にて子供の手の届かないところに保管してください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
- 塗料などの缶の積み重ねは3段までとしてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上の温度に暴露しないでください。
- 内容物／容器を廃棄するときには、国／地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。

- 詳細な内容、表示例以外の商品については、製品安全データシート (MSDS) をご覧ください。
- 本商品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

■ 詳しい情報はホームページで

日本ペイント 建物 検索

http://www.nipponpaint.co.jp/biz1/building.html

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログの商品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2013 NIPPON PAINT Co.,Ltd All rights reserved.
- 当社は2013年3月現在ISO 14001を全事業所で認証取得しております。 ● このカタログは再生紙を使用しています。

日本ペイント株式会社

お客さまセンター

03-3740-1120

06-6455-9113

http://www.nipponpaint.co.jp/

カタログNo.

NP-Q137

KE130302T

2013年3月現在